

## 23. べにばな

・殺菌剤（参考農薬）

FRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
M3+1	ベンレートT水和剤20	24時間種子浸漬 種子粉衣	は種前	1回	
M3+1	ホームイ水和剤	30分間種子浸漬 種子粉衣	は種前	1回	

注1) 使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、この他に薬剤に含まれる成分毎に、総使用回数が決められているので、農薬ラベル等を確認してそれを超えないように注意する。

注2) 蚕毒・魚毒については、「28. 花き類の総括注意」も参照する。

病害虫名（F：菌類病、B：細菌病、V：ウイルス病、O：その他の病原体）

病害虫名	防除時期	防 除 方 法	注 意 事 項
炭 疽 病 (F)	は 種 前	[参考農薬] 1. ベンレートT水和剤20の10倍液に24時間種子浸漬処理するか、乾燥種子重量の0.5%を種子粉衣処理する。	1. 消毒液の残液については、農薬廃液処理装置を用いて処理するか、産業廃棄物処理業者に処分を依頼する等適正に処理する（特別指導事項 参照）。
苗立枯病 (F)	は 種 前	[参考農薬] 1. ホームイ水和剤200倍液に30分間種子浸漬処理するか、種子重量の1.0%を種子粉衣処理する。	1. 消毒液の残液については、農薬廃液処理装置を用いて処理するか、産業廃棄物処理業者に処分を依頼する等適正に処理する（特別指導事項 参照）

## 24. アルストロメリア

・殺虫剤（参考農薬）

IRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
7	ラノーテープ	作物体の付近に設置する	栽培期間中	1回	花き類・観葉植物（施設栽培）

- 注1) 使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、この他に薬剤に含まれる成分毎に、総使用回数が決められているので、農薬ラベル等を確認してそれを超えないように注意する。  
 注2) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。  
 注3) 蚕毒・魚毒については、「28. 花き類の総括注意」も参照する。

病害虫名（F：菌類病、B：細菌病、V：ウイルス病、O：その他の病原体）

病害虫名	防除時期	防 除 方 法	注 意 事 項
ウイルス性病 害 (V)	生育期間	1. ウイルス感染苗による伝播は広範囲に及ぶため、無病苗を用いるようにする。 2. アブラムシ類防除のため定期的に殺虫剤を散布する。 3. ハウスの開口部を、防虫ネット(0.8mm目合い)で被覆する。 4. ハウス周辺の雑草は伝染源になるので定期的に除草する。 5. 罹病株から順次二次伝染が起こるので、発病株は早期に抜き取り、ほ場外に埋却する。	1. 病原ウイルスに、CMV、ALMV及びBBWVなどが知られているが、長野県内の主要なウイルスはALMVである。また、これらウイルスは全てアブラムシ類により媒介される。 2. これらウイルスの重複感染により病徴が激しく現れるので、アブラムシ類の防除を徹底する。
黄化えそ病 (TSWV)	植付前	1. 無病苗を使用する。	1. 病原ウイルスは、いずれもアザミウマ類により伝搬される。 2. これらのウイルスには簡易診断キットが市販されている。それらを用いて診断可能である。
条えそ病 (IYSV) (V)	生育期間	1. ウイルス感染苗による伝播は広範囲に及ぶため、無病苗を用いるようにする。 2. アザミウマ類の飛来・増殖を徹底的に阻止する。ハウスの開口部を防虫ネット(0.4mm目合い)で被覆すると、侵入を軽減できる。また、「25. 花き類・観葉植物」の項を参考に、殺虫剤を定期的に散布する。 3. ハウス周辺の雑草は伝染源になるので定期的に除草する。 4. 罹病株から順次二次伝染が起こるので、発病株は早期に抜き取り、ほ場外に埋却する。	
灰色かび病 (F)	生育期間	1. 施設内が過湿にならないよう換気を図り、密植を避ける。 2. 株元の枯死葉は伝染源になるので除去する。 3. 発病を見たら、直ちに罹病部を除去する。	
オンシツ コナジラミ	生育期間 (施設栽培)	1. 施設の開口部を防虫ネット(0.4mm目合い)で被覆する。 2. 黄色粘着トラップを設置して成虫の発生消長を把握する。 3. ラノーテープを10a当り50㎡(幅5cm×200mを5本)の割合で設置する。	1. ラノーは、蚕毒に特に注意する（特別指導事項参照）。 2. ラノーの使用法と注意事項については、「ラノーテープの使用法と注意事項」を参照。

### ラノーテープの使用方法と注意事項

ラノーテープは、IGR剤のピリプロキシフェンを含有する黄色テープである。黄色に誘引されテープに接触したコナジラミ類雌成虫は死亡しないが、産んだ卵は孵化が阻害される。その結果、次世代のコナジラミ類の増殖が抑制される。

#### (1)使用方法

定植後、オンシツコナジラミの発生初期に10a当り50㎡(幅5cm×200mを5本)を設置する。畦に沿って直上部に横断幕のように設置し、アルストロメリアの生長に合わせて高さを順次上げる。

#### (2)使用上の留意点

ア 施設栽培アルストロメリアでの使用に限る。

イ 使用後に資材(使用済みテープ、巻き芯、空き袋、設置に使用した手袋等)の回収を行うため、地域ごとにまとめて使用することが望ましい。

ウ 使用に際しては、地域で開催されるラノーテープ説明会に出席し、使用についての覚え書に署名、捺印する。

エ 1年の内のある作型に限って使用し、設置期間は最長でも6か月以内とする。

オ タバココナジラミバイオタイプQには効果が劣るので注意する。

カ 蚕に対して長期間強い毒性があり使用地域の制限(IGR剤指定地域かつ桑園から1km以上離れた地域)があるので、これ以外では使用しない。

キ 養蚕または桑生産を行っている生産者は使用しない。